A32：その他の情動に関する内容

年	No	正解	解釈	
7	4	e	all	動機付けの問題ですが、de はむしろ発達心理学の問題です。 d のｺﾝﾋﾟﾃﾝｽ(competence)は難しいと思います。
			a	○:直接的に動機付けが満たされ、動因が低減します。1 参照
			b	○:動機付けには、食の動機付け以外に、多様な動機付けがあり、探索の動機づけもそのひとつです。1 参照
			c	○:ﾚｽﾎﾟﾝﾃﾞｯﾄやｵﾍﾟﾗﾝﾄ学習が賞罰により成立するのに対し、社会的学習における自己強化にあたります。1 参照
			d	○:ｺﾝﾋﾟﾃﾝｽ(copetence)は、潜在力というﾆｭｱﾝｽの能力で、多様な使われ方をしますが、発達心理学ではいきいきと環境と相互交渉できる力の意味で用いられます。産業分野では専門能力を意味して使う用語で、その場合はｺﾝﾋﾟﾀﾝｽの発音が普通です。
			e	×:Piaget,J の認知機能の発達理論(A51 参照)によれば、感覚運動的知能の時期に、人は外界に働きかけた結果から適応行動ﾊﾟﾀｰﾝ(ｼｭﾏ)を獲得していきます。
7	9	b	all	不安に関する設問ですが、D は Lazarus のｽﾄﾚｽ評価の問題で、A31 に記載しています。E は認知的不協和理論の問題で A61 社会心理学で記述しています。
			A	×：特定の脅威に対して感じるのは恐怖であり、脅威の対象が不明確なときに感じるのが不安です。2 参照
			B	○:確認していませんがFreudの 1926 年の著作「制止、症状、不安」に記述があるようです。Freud,S は、個人の外部にある脅威により引き起こされる心配を現実的不安、内的衝動により触発される漠然とした懸念を神経症的不安と呼んだようです。
			C	○:恐怖と不安は等質性がある不快な感情です。「苦痛に条件づけられた反応」という表現はいまひとつ理解できませんが、苦痛な出来事に随伴する感情だということだと思います。2 参照
14	19	b	all	この問題は情動に関する問題です。 情動については、意外なことに明確に定義された表現を探すことができず、まとめには特に記述をしていません。そこで、この問題で補足説明をしていきます。
			A	○!:これは、体験的に理解できる内容ですが、実際に辞書や Web を調べてみると、理論的根拠のある背景は確認できませんでした。情動も感情も英語では emotion ですが、日本語の情動は、感情に比べて動物的、衝動的で激しい一過性の感情状態または感情体験を意図して使われるようです。
			B	○:情動と感情の線引きは立場により異なるようですが、医学や脳科学の立場からみた基本的な意味での情動は、接近行動や回避・逃避行動を引き起こすもので、生物の個体維持のためのものです。
			C	×:情動表出反応は表情などですので、随意反応です。文中に出てくる情動性自律反応とは、ｽﾄﾚｽを感じたときに自律神経系を介して生じる汎適応症候群の反応(心拍数増加、骨格筋の血流の増大・攣縮、消化器運動の減少、瞳孔散大、呼吸促進) をいいます。
			D	○:視床下部の役割のひとつが、血糖値を一定に保つために血糖値が下がると摂食行動を促す摂食中枢で、その機能に捕食行動の誘発もあります。実際に、猫の外側視床下部を刺激すると、ﾗｯﾄを捕食する行動が誘発されるという実験結果があるようです。
19	15	b	all	不安に関する問題です。 A:神経症は:7-9B の解釈を参照してください。 B:ﾚｽﾎﾟﾝﾃﾞﾝﾄは、嫌悪刺激を用いてﾚｽﾎﾟﾝﾃﾞﾝﾄ条件付けすると、不安などのﾈｶﾞﾃｨﾌﾞな情動が条件づけされるということで、A11:1-(2)参照。 C:評価は、行動ではなく評価であることが、容易に理解できると思います。
21	8	d	all	4参照 A:Schacter,S、B:生理的喚起、C:認知的解釈